

本日、ここに令和 6 年第 3 回市議会定例会を招集いたしまして、補正予算案をはじめ、当面する市政の重要案件についてご審議をいただくわけであります。

各案件にわたります詳細につきましては、審議の過程で副市長並びに担当部課長からご説明申し上げることといたしまして、私はその概要と今の所信の一端を申し述べ、議員各位並びに市民の皆様に一層のご理解とご協力をお願いする次第であります。

4 月 17 日の深夜、豊後水道を震源とするマグニチュード 6.6 の地震が発生しました。四国・九州を中心に西日本の広い範囲で大きな揺れを観測し、愛南町及び高知県宿毛市で最大震度 6 弱、八幡浜市においても震度 5 弱を記録するなど、この地域では近年にない大きな地震となりました。

本市では人的被害はなく、物的な被害も比較的軽微なものにとどまり、ひとまずは安心したところですが、同じく 4 月には台湾東部沖でマグニチュード 7.2 の大きな地震が発生するなど、日本及び周辺で地震が頻発しています。改めて、災害はいつどこで発生するかわからないと気を引き締めるとともに、万が一の事態に備え、「防災・減災対策に終わりなし」との信念のもと、引き続き、愛宕山プロジェクトをはじめとする防災まちづくりの推進やインフラの耐震化などに重点的に取り組んでいきたいと思ひます。

本年 1 月に発生した能登半島地震の被災地に目を向けると、いまだに下水道を始めライフライン等が十分復旧していない地域があるなど、復興に向けて引き続き支援が必要な状況です。本市においても 5 月 20 日から 29 日にかけて、4 回目となる石川県輪島市への応援職員派遣を実施しました。

近い将来、高い確率で南海トラフ巨大地震の発生が予想されている中で、本市としても決して他人事と捉えず、相互の助け合いの精神のもと、被災地支援に取り組んでいきたいと思ひます。

令和 3 年 4 月の 4 期目市長就任以来、私は「わくわくする八幡浜」の実現を目指し、最重要課題として 5 つの「未来を拓くプロジェクト」の取り組みを進めてきました。

中でも地域活性化につながる期待の高い「四国電力跡地プロジェクト」及び「八幡浜港みらいプロジェクト」について、先日開催された市議会協議会において、議員の皆様具体的な方向性をお示したところです。

四国電力跡地については、市民から特に要望の多かったファーストフード店であるマクドナルドを誘致し、隣接している旧松蔭保育所跡地には八幡浜児童センターを移転整備します。また、県道を挟んだ民有地へのホテルの誘致にも取り組み、観光客等をさらに呼び込むための宿泊施設の充実を図ります。

八幡浜港周辺については、若者に人気のニュースポーツが楽しめる施設としてスケートボードパーク及び3×3（スリー・エックス・スリー）バスケットコートを整備します。その他、キャンピングカー用の有料駐車場であるRVパークや脱炭素社会実現に向けたEV車用急速充電施設、プレジャーボートやヨットが係留できる海の駅としてのビジターバース、また、魚市場敷地内には津波避難施設としての機能を備えた立体駐車場の整備など「八幡浜みなと」を中心としたエリアの機能強化に加え、引き続き、市民からの要望の多い回転寿司店の誘致にも取り組み、さらなるにぎわい創出を図ります。

今後、この構想に基づき、順次、各施設の整備を進めていきますが、これらの施設を核として、市全体に賑わいがひろがることで、公約としている「わくわくする八幡浜」の実現に一步近づくことができるのではないかと考えています。議員の皆様におかれましても、さらなる八幡浜市の発展のため、ご理解とご協力をお願いします。

次に、ダルメイン World マーマレードアワード&フェスティバル in Japan についてです。本市での開催も6回目となり、回を重ねるごとに盛り上がりを感じているところですが、私は本市での審査に先立ち、4月に英国ダルメインで開催された英国大会へ参加してきました。大会創始者であるジェーン・ヘーゼル・マコッシュさんにもお会いし、長年の日本・英国間の友好親善に寄与した功績により、昨年秋、旭日単光章が叙勲されたことへの祝福と、これまでの本市での大会に対するご尽力への謝意を直接お伝えすることができました。また、英国での八幡浜市及び特産品のPRをはじめ、日本大使館や農林水産省関係者、英国在住の八幡浜市出身者など様々な方々と交流を図ることもでき、英国大会を応援する上でも大変意義深い視察となりました。

ジェーンさんを始め、英国大会の関係者の皆様とは今後も良好な関係を構築し、両大会がともに発展していくよう努めていきたいと思えます。

第6回日本大会につきましては、先月6日から8日に英国大会審査員のジェーン・マグスさんをはじめ国内外で活躍する食の専門家の方々を迎え、八幡浜港フェリーターミナル展望ロビーにおいて最終審査会を開き、審査結果を公表したところです。

今大会は過去最多の2,110作品が出品され、国内は44都道府県から、また海外からは台湾に加え、初めてアメリカ、香港からも応募があり、着実に大会の認知度の高まりを感じています。

11月の産業まつりの際に実施する表彰式・フェスティバルは、今まで以上に魅力あふれる八幡浜らしい大会となるよう準備を進めていきます。

5月25、26日には、今回で通算22回目となる「やわたはま国際MTBレース2024」が市民スポーツパークで開催されました。国際大会にふさわしく海外3か国、9名を含めた、延べ337名の選手が参加し、多くの歓声の中、トップレベルの選手に

よる熱いレースが繰り広げられました。

マウンテンバイク競技の特性上、市民の参加率はまだ高いとは言えませんが、昨年同様、八幡浜マウンテンバイククラブで活動している小中学生 6 名がキッズやカデットのカテゴリーに出場し、はつらつとした選手宣誓や真剣な走りで大会を盛り上げてもらいました。今回、参加した子ども達や他のクラブ員の中から、今後、ユースやチャレンジなどの J C F 公認カテゴリーにステップアップできる選手が現れるように、市としても継続して体制づくりに取り組んでいきます。

次に、本市の令和 5 年度決算の概要であります。

一般会計につきましては、本市の貴重な財源となっているふるさと納税が約 2 3 億円と 6 年連続愛媛県内一位の寄付額となったこともあり、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支で約 1 0 億円の黒字が見込まれ、順調な決算を迎えることができました。

しかしながら、現在も様々な分野において物価高騰の影響が長く続いていることに加え、人口減少に伴い市税等の増加が見込めない中で、老朽化等に伴う多くの施設の改修や更新なども控えており、財政状況は決して楽観視できるものではないと考えています。

今後も、国や県の動向を注視するとともに、財政健全化に努めていきます。

下水道事業会計につきましては、当年度純利益 6, 3 4 8 万 1 千円を計上し、単年度黒字決算となりました。

しかしながら、今後も中長期的な基本計画である「下水道事業経営戦略」に基づいたストックマネジメント事業による老朽施設の改築・更新及び保内町神越地区の浸水被害対策のための雨水整備事業の推進等により事業費の増加が見込まれます。

下水道施設をこれからも適切に維持していくため、企業的性格を活かし能率的な経営のもと、より一層経営の効率化・健全化に努めていきます。

水道事業会計につきましては、当年度純利益 8, 9 0 6 万 4 千円を計上し、単年度黒字決算となりました。

しかしながら、高野地地区上水道未普及地域等解消事業や老朽化した施設の更新・耐震化等で今後も継続して多額の費用が必要となることに加え、簡易水道事業統合に伴う維持管理費の増加も見込まれる一方、人口減少に伴い給水収益は減少していくことが予想されます。

今後は厳しい経営状況となるが見込まれますが、引き続き、限られた財源の中で経営努力を重ね、安全で良質な水を安定的に提供できるよう努めていきます。

病院事業会計につきましては、入院、外来とも患者数が減少したことにより、医業収益が減少し、また医業外収益においても新型コロナウイルス感染症医療提供体制確保事業費補助金の見直しによる減額などにより、当期純損失34,352千円を計上し、8年ぶりの赤字決算となりました。

今後も、人口減少が進む中、収益の大幅な伸びは期待できず、また支出については人件費や物価高騰による経費の増額等の要因により、厳しい状況が続くことが予想されますが、令和5年度末に策定した経営強化プランに基づき、健全な経営基盤を構築するとともに、診療レベルの向上を図り、安全安心な医療を提供できるよう努めていきます。

それでは、今回提案の6月補正予算の主なものについて、順次ご説明します。

### **最初に「物価高騰対策」についてであります。**

令和6年度税制改正に伴い、賃金上昇が物価高に追い付いていない国民の負担を軽減するため、令和6年分所得税及び令和6年度分個人住民税の定額減税が今月から実施されます。

納税者本人及び扶養親族1人あたり所得税3万円と住民税1万円、あわせて4万円を減税するもので、減税しきれないと見込まれる方については、差額分を調整のうえ支給します。

また、物価高騰の影響を大きく受ける低所得世帯に対する支援として、令和6年度に新たに住民税非課税又は均等割のみ課税となる世帯に対して1世帯あたり10万円、18歳以下の児童が扶養されている場合は児童1人につき5万円を加算して給付を実施します。

### **次に「安全安心なまちづくり」についてであります。**

元日に発生した能登半島地震では多くの建物の倒壊がメディアによって伝えられ、大きな衝撃を受けたところですが、本市においても住宅の耐震性に対する不安から、市民の相談件数も増加しています。災害時の被害の軽減を図るため、国、県の補助を活用した住宅の耐震化の推進を図ります。

その他、例年6月補正予算で計上しています、県が実施する国道及び県道・急傾斜地崩壊対策事業・県単独港湾施設の改良事業等に要する負担金、若山地区のがけ崩れ防災対策事業により、市内における道路等の利便性向上及び安全な生活環境の確保を図ります。

また、今年度、八幡浜市が学校における防災教育実践のモデル地域に指定されたことから、研修等の実施により教員の資質向上を図るとともに、拠点校である松蔭小学校を中心に防災学習教材等の活用や防災遠足の実施などにより防災教育の充実を図ります。

次に「暮らしやすいまちづくり」についてであります。

本市では、令和４年度に策定した八幡浜市公共交通計画に基づき、公共交通の維持存続のため、利用促進につながる案内表示やバス停の改善などに取り組んでいるところです。今年度の新たな取り組みとして国の交付金を活用し、市民に公共交通を身近に感じてもらい利用の促進を図るモビリティマネジメントを担う人材の養成に取り組めます。

子育て支援については、「次元の異なる少子化対策」の実現に向け、政府が昨年１２月に閣議決定したこども未来戦略の「加速化プラン」に盛り込まれた施策の具体化として、子育てに係る経済的支援の強化を図るため、児童手当の拡充が１０月分から、児童扶養手当についても１１月分から拡充が実施されますので、それぞれ対応する予算を計上しています。

また、耐震性が確保されていないため移転・新築を計画している神山こども園の候補地について調査検討を行います。

新型コロナウイルス感染症については、感染症法上の５類感染症となり１年あまりが経過し、重症化事例こそ減少していますが、依然として感染力の強いウイルスであることには変わりありません。令和５年度末で全額公費負担の特例臨時接種が終了しましたが、令和６年度からは、予防接種法上の定期接種に位置付けられたことから、インフルエンザ同様、高齢者等に対する予防接種の推進により、感染症の予防を図ります。

その他、市の公共施設としては初めて、脱炭素化の取り組みとして、省エネや太陽光発電を利用するとともに、高齢者にも配慮して設計された松蔭地区公民館について建設工事に着手します。

次に「産業振興の取り組み」についてであります。

漁業振興対策としては、

県が実施する向灘地区の臨港道路改良工事に伴う負担金を引き続き計上しているほか、アンカーチェーンが破断し、台風シーズンを迎える前に早期の復旧を要する真網代漁港の浮防波堤の補修を行います。

続いて、農業振興対策では、

みつる共選と伊方共選の再編・統合による新選果場の整備に対する支援について、新たに県の追加支援が決定したことから補助金を増額します。

最後に、商工観光振興対策です。

民間企業から本市に派遣されている職員の企画により、令和４年度から実施している「八幡浜の良さを伝える旅行商品の造成・販売・宣伝活動事業」ですが、今年度も引き続き、旅行商品の内容を改良し、関西圏のテレビ局による情報番組の中で当該旅行商品や八幡浜の魅力を紹介することで、知名度向上と更なる集客を図ります。

以上が、6月補正予算案の概要であります。

この結果、

一般会計のみの補正で、 16億6,240万4千円の追加を、ご提案申し上げます。  
るものです。

これらの財源としましては、財政調整基金繰入金をはじめ、国・県支出金、市債等それぞれの事業施策に対応する額を計上しています。

以上、ご説明申し上げました補正予算案等につきまして、慎重審議を賜りまして、ご賛同いただきますようお願い申し上げます。